

校長室から

(H30年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 34

平成30年11月5日(月)発行

読書に親しむ生活をつくろう

以前にもお知らせしましたが、毎年10月27日から11月9日までの2週間は読書週間です。みなさんの生活の中には、本と親しむ時間や場所がたくさんあります。

その一つ、朝の読書タイムは、本を読んで1日を始めるひと時です。静まりかえった教室の中で、みなさんが本の世界に浸っています。その静けさとは反対に、一人ひとりがそれぞれ異なる、この場にはないものを思い浮かべたり、登場人物と対話したりして、ワクワクと頭の中が活発に動いていることが想像できます。教室の机の引き出しに、本を入れている子もたくさんいます。ある日、自分の課題を終えた子が、引き出しから本を取り出して読み始める姿を見かけました。すると、ほかの子も誰かに声をかけられることなく、同じように本を取り出して読み始めました。自然な動きで、いつも通りという様子でした。教室に本のコーナー(学級文庫)を作っている学級もたくさんあります。みんなに読んでほしいという取組みの一つです。

そして、ドアを開けると本の世界が広がっている図書室があります。図書室の近崎先生がいろんな本の紹介コーナーを作ってくださっています。読書の相談にものってくださいますし、時折、読み聞かせもしてくださいます。読書に親しむにはベストの環境ですね。

では、なぜ読書は大切なのでしょうか。一つに「想像すること」ができるようにするためです。「想像すること」とは、実際に経験しないことやできないことを思い浮かべることで、物だけでなく、人の気持ちや考えなどを思い

浮かべることも含みます。サン＝テグジュペリという人が書いた『星の王子様』という本があります。この本の中で、キツネが王子様に次のように言って教えます。

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」

見えないものを見る心を育てるために、読書週間のある今月、読書に親しむ生活づくりを進めませんか。



ひ とつにみんなでまともろう！
が くりょくと体力をのばそう！
し っかりせいかつしよう！
な かよく友だちとすごそう！
ら んらん夢に向かう東奈良っ子！

あ いさつができる子
い っしょうけんめい勉強する子
う んどうが好きな子
え がおでやさしい子
お そうじをがんばる子

天知る、地知る、我知る、人知る

学校前の小川に、よくゴミが捨てられています。なぜでしょう。ここで、中国の古いお話を紹介します。ある夜、楊震(ようしん)という名前の役人のもとに、一人の男がお金を持って訪ねてきました。その男は楊震に推薦されて役人になった人でした。男が持ってきた物は賄賂(わいろ)でした。賄賂というのは、自分だけ良くしてもらうために、こっそりお金などを届けることです。男は「まあまあ、夜も遅く誰も知る人はいませんから」と言って、楊震にお金を渡そうとしました。すると、楊震は「誰も知る者がいないなどんでもない。天が知っている。地が知っている。私が知っている。君が知っているではないか」と言って、賄賂を断りました。

つまり、誰も知らないと思っても、誰かが知っているということです。このことは「天知る、地知る、我知る、人知る」という言葉で、現代にも伝えられています。歩道にゴミやペットボトルを捨てている人は、誰も知らないと思っていることでしょう。しかし、誰かが知っています。少なくとも自分は知っているのです。隠しごとやよくないことは、いつか必ず見つかります。みなさんも「これは誰も知らないから…」という気持ちを持ったときは、「天知る、地知る、我知る、人知る」という言葉を思い出して、正直で誠意ある行動をしてください。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール49 現在を楽しもう

今日という日は一度しかない。だから、むだにしないこと。

●一日一日を最大限(さいだいげん)に生き、一瞬一瞬(いっしゅんいっしゅん)を感謝しよう。新しいことに挑戦し、未知なるものを経験し、真に人生を生きることのすばらしさを、ぜひきみたちにも知ってほしい。